

# 懐かしくて新しい「アクティブフリル浴衣」で毎日の生活に彩と潤いを。

浴衣のままだと毎日着られない。でも、裾をフリルにしたら、気軽な部屋着として、寝間着として毎日着られるかもしれない。そんな思いからアクティブフリル浴衣は生まれました。



ばあば早く元気になってね。  
来年もよさこい祭り一緒に  
見ようね！



写真のアクティブフリル浴衣は、K医大に入院中の母へ届けたものです。「ありがとう。これなら病室で毎日着られるわ。」と喜んでくれました。先生や看護婦さん、同室の患者さんからも、「殺風景な病室に花が咲いたようで明るくなった。」「昔は着物を着ていたわねえ…」など、昔話や、着物の話に花が咲き、病室全体がいい雰囲気、塞いでいた人も笑うようになり、患者さんの精神安定に、浴衣はとて面白い効果があるようです。

アクティブフリル浴衣は、安心安全なバリアフリーデザインです。

## 世界中のおばあちゃんを元気にする!

### 「着物を着てリハビリをするお年寄り急増！」



お年寄りが寝たきりにならないための予防介護に、着物が大活躍しています。着物を着られない人でも、アクティブフリル浴衣を着てリハビリを始めてみませんか？

ダンスの中で眠っている浴衣を、昔取った杵柄で、自ら直して自分で着ることもできます。

洋服と比べても手の運動を妨げない、運動機能にも優れ、締め付けないので着用感も楽です。寝たきりの人の着替えも楽にできます。

アクティブフリル浴衣は洋服の上に羽織れるので、食事の時のエプロンに、ワークショップの作業着になります。

懐かしくて新しいアクティブフリル浴衣は、日々の生活に彩と潤

いをもたらします。

## 「寿命と、健康寿命の違い。」を知っていますか？

\* 高齢化社会の中で、健康で元気に歳を重ねることはとても大切な事です。ところが、「岡山県は政令都市で一番長生きだけれど、健康寿命はとても短いそうです。どうすれば岡山県の健康寿命をのばす事ができるのでしょうか。実は、**高齢者が身綺麗にしておしゃれをすることこそが、健康で長生きをする秘訣**だそうです。

美容師として三十数年、お客様の髪を整え、人生の節目の大切な場面で、着物の着付けに携わってまいりました。医療、介護の現場でもハートフル美容師が活動しています。「一髪、二化粧、三衣装。」着物の着付けは、リハビリとして介護医療保険も適用されています。着物を着てお茶、お花、習字を習うこと、それらはリハビリとして認められています。

老人ホームで入居者に着物を着てもらおうと、多くの人がこれまで見せたことのないような笑顔を見せたということです。

また看護師が着物に着替えたら、白衣の時よりも患者さんに精神的な安定も見られるなどの嬉しい報告があります。患者さんの心に懐かしく温かな母親のような安心感を与えるようです。着物が果たす役割が医療、介護現場でも見直されているようです。

\* おしゃれと健康寿命の素敵な関係（美容組合支部総会での、保健所の

話より)

## アクティブフリル浴衣誕生秘話

「本当は、おばあちゃんに着てほしかったアクティブフリル浴衣。」

浴衣が大好きだったおばあちゃん。最後の入院が決まった前の晩、一人静かに仏壇に手を合わせ、「おじいちゃん、もうそろそろ、そっちへ行ってもいいかねえ…」聞くとともになしに聞こえてきた祖母の声。小さな風呂敷包に身の回りの物少しと、思い出の浴衣を一枚。

けれども、一度も袖を通すこともなく遺品として帰ってきました。浴衣の形状が、院内着として適切でないとのことでした。

あれから三十年余り…。先日母がK医大に緊急入院しました。私はすぐさま院内着に改良したアクティブフリル浴衣を二枚実家に送り、病院に届けてもらいました。医師、看護婦さんの理解もあり、患者さんの評判も良く、母も大変喜んでいと父から感謝の電話がありました。開発までの三年間、試作品を作っては改良し試行錯誤の中で毎日アクティブフリル浴衣生活をしてきました。

アクティブフリル浴衣は、体の不自由な方にも安心安全なバリアフリー仕様です。階段でつまづく心配のないように裾をカーブに切り取りフリル加工しました。袖もドアノブや機器に引っかける心配がないように改良してあります。おばあちゃんに着てはもらえなかったけれど、院内着、館内着としてぜひご活用いただき、元気に楽しい毎日を過ごしていただきたい

と思います。

## 「伝統文化を未来に繋ぐ。」

日本の伝統衣装着物に込められた母心を繋ぐ。

日本の伝統衣装の浴衣には、豊かな色彩、季節感など、五感を刺激する作用があります。着物を日常に着ていた世代にとって、懐かしく温かい郷愁にも似た得も言われぬ感動を心に呼び覚まします。それは故郷の母親を思う気持ちと似ているように思えます。嫁ぐ日に持たせてくれた着物を眺めるたびに、母が語りかけてきます。「遠く離れていてもいつもそばで見守っているよ。身体に気を付けてね、嫁ぎ先で幸せになりなさい…。」そんな切なる願いを込めた声が着物から聞こえてきます。悲しいとき、苦しいときそんな母の声私を支えてくれます。楽しいときも共に喜んでくれます。

日本人の歴史において、着物は形見であり遺品ではありませんでした。

「形見と遺品の違い」「形見」とは故人が生前使用していたものの中で、特に故人を偲ばせるもの、思い出の残る品。「遺品」とは、故人が生前使用していたもので、処分されずに残っているもの。では、いつから着物が遺品として扱われるようになってしまったのでしょうか？

母が眺えてくれた着物を眺めるたびに、故郷の母を思い出します。祖母

の形見の浴衣を見るたび隣にいるような気がします。最後の夏を共に過ごしたあの日の祖母の姿のままです。

**着**物にまつわる思い出は、人生の節目ごと、四季折々の移ろいと共に誰の心の中にも大切にしまわれていると思います。そのかけがえのない思い出と共に着物は代々子孫に伝えられ、受け継がれてきました。けれども、時代が変わり着物が意識の遠くに流れ去り、日常からかけ離れたものになってしまった現代。祖母の世代、母の世代、子の世代の誰が着物を伝え受け継ぐことができるのでしょうか？

「**着物三代福が来る。**」これこそ子孫繁栄を、伝統文化の承継は、着物が受け継がれてきたからこそその伝統文化です。この心無くして着物だけを残しても、形骸化した物だけが残って「遺品」として処分される着物のなんと多いことでしょう。

**着**物は箆笥の中で朽ち果て処分される運命から自ら逃れるすべはありません。このままでは、着物の命を全うできずに時代遅れで不要な物として処分されてしまいます。

**伝**統文化として受け継がれてきた着物は、わずか半世紀余りの間に失われつつある本来の価値観を、日本人自ら問い直し、見直す事こそ大切な事ではないでしょうか。

アクティブフリル浴衣プロジェクトは、伝統文化着物を未来に繋ぐための一つのアプローチです。共感で繋がるプロジェクトメンバーとの出会いでこそ、豊かな可能性を秘めた未来への扉が開いてゆくと感じています。

「早く行きたければ一人で進め、遠くまで行きたければ皆で進め」

これはアフリカのことわざだそうです。この言葉の本当に意味するところは、遠くまで行ったときにわかることなのかもしれません。

アクティブフリル浴衣プロジェクトは、きっとそういう性質をもったものだと思います。

アクティブフリル浴衣プロジェクトの意義は、浴衣(着物)の再評価をし、社会的にアピールしてゆくことです。

着物は六十代以下の世代では、日本女性の90%以上が自分で着られないという統計が出ています。世代間で受け継がれないものは廃れてゆきます。失われてからではなく、今守るべきものがあると思います。

親から子へ、子から孫へ伝え受け継いでゆく着物文化について、捨てる

前に、ちょっと立ち止まって一緒に考えてみませんか？